

熱中症死亡事故軽減の可能性

～新たな対策モデルの提案～

赤池俊哉 大江あずさ
卓有加里 福永泰大 藤間博史

要 旨

私たちは熱中死亡事故件数が急速に増えているという現象に目を付け、それらに対する対策がしっかりと行われていないという現状に対して、新たな対策モデルを作り熱中症死亡事故の軽減を行うことをテーマとしました。

東京都監察医務院からいただいたデータから、熱中症死亡者は65歳以上の高齢者であり独居生活者が大半を占めていることがわかり、なおかつ室内で発症していることが分かりました。また、日本救急医学会の熱中症に関する委員会のデータによると、屋内で熱中症を発症した65歳以上の高齢者の約9割が、クーラーを持っていない、もしくは持っているが停止させていたことがわかりました。クーラーを停止させていた要因は、年齢の増加による感覚器官の衰えから暑さに気づけなかった、あるいは電気代に対する不満と考えられます。こうした熱中症死亡者の属性と背景に対して既存の熱中症対策は適しているものではなく、熱中症死亡事故軽減対策には自然と気温を下げる機能を持ち、同時に維持費がかからないものが新たに必要であると考えました。これを私たちはグリーンカーテンを用いて実現することとし、様々なサポートを行い実現しやすい環境作りを行うNPO法人グリーンネットを設立することといたしました。

グリーンネットによる熱中症対策は次のとおりです。まずターゲットは死亡者の属性である65歳以上の独居生活者とし、希望者に対して対策を行います。私たちグリーンネットからターゲットの各家庭にグリーンカーテン栽培キットを提供し、同時に育成の説明やノウハウを指導します。グリーンカーテンに使用する植物はゴーヤとし、その生育状況を二日に一回の電話により報告してもらい、簡単な安否確認の役割を持たせます。グリーンカーテンの作成に伴い出来たゴーヤを回収します。グリーンネットの運営方法として、ゴーヤを飲食店に販売し、その買い取り代金を運営資金として用いることとし、ターゲットの費用負担をなくします。このように既存の対策とは違う、幅広い対象者と高齢者負担が少ない気温低下機能の提供、幅広いカバー時間を実現した対策モデルとなります。

高齢独居者に熱中症対策と共に、ものづくりの喜びや緑によるフィーリング効果等を与え、グリーンネットは熱中症死亡事故軽減を行う新たな対策モデルを提供します。